

地域アクションプラン進捗管理シート 総括表  
《幡多地域：第 1 四半期》

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>1 水稲と露地野菜を基幹とした水田農業の担い手育成</p> <p>《幡多地域全域》</p> <p>持続性のある水田農業を確立するため、水稲と露地野菜を基幹とした大規模経営体、またはそれを志向する農業者を対象に、規模拡大による生産性の向上と安全・安心・高品質生産を推進し、所得向上と雇用創出を図る。</p> <p>【JA高知はた】</p>	<p>○大規模志向農家のネットワーク化に向けた「交流会」を開催し、志向農家はもとより関係機関への意識付けにつながった。</p> <p>○指標達成経営体数、H24:2経営体</p> <p>○H24産振アドバイザー制度活用(1回)</p> <p>◆今後も回を重ね、「ネットワーク」への参加者を募るとともに、これを核として徐々に大規模化につなげていけるような支援が必要。</p>	<p>・ブロッコリー大規模経営に向けた研修会開催(6/14参加者14名)</p>
<p>2 洋ランのブランド確立・流通促進事業</p> <p>《宿毛市》</p> <p>宿毛市内の生産者をはじめ、県内の洋ラン生産者が新たな組織を立ち上げ、各生産者が生産した洋ラン商品を一元的に集荷、パッケージ化し、市場を通じたこれまでの流通に加えて、直接小売店や消費者に販売する。</p> <p>【蘭遊 六志会】</p>		<p>・タイ・中国で販路開拓(石田蘭園、蘭遊 六志会)</p> <p>タイ(チェンマイ)1件、中国(雲南省昆明市)2件</p>
<p>3 有機農業普及・拡大事業</p> <p>《四万十市》</p> <p>安全・安心な有機野菜による米や野菜の消費を拡大させる取組を進めることにより、地域住民の健康や農業振興・商業振興につなげ、「有機農業四万十市」の定着を目指す。</p> <p>【四万十市】</p>	<p>○有機農業の普及拡大(H21~H24)</p> <p>・高付加価値農業の研修(H21~H24)</p> <p>四万十市の一般市民を対象に、H21から継続して「生産技術研修会」を開催</p> <p>・有機農産物流通システム構築事業(H22~H24)</p> <p>18軒の家庭へ有機野菜を宅配</p> <p>・緊急雇用創出臨時特例基金事業を活用、宅配(一般家庭)の募集と事業PRを実施</p> <p>◆有機農産物のさらなる認知度向上</p> <p>◆有機農産物の栽培技術の向上</p> <p>◆需要の拡大(PRと販売促進)</p>	<p>・高付加価値農産物生産計画・技術力向上研修の開催(3回)</p>
<p>4 三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築</p> <p>《三原村》</p> <p>三原村の環境を生かした中山間の農業振興策として、農業公社を核としたユズ、ブロッコリーの産地化を目指す。</p> <p>【(財)三原村農業公社、三原村、JA高知はた】</p>	<p>○ユズの産地化の推進(H20~23)</p> <p>・幡多管内ユズ栽培面積・・・H19:56ha→H23:79ha(うち三原村・・・H19:7.6ha→H23:22.1ha)</p> <p>○生産量拡大と有利販売の推進(H20~)</p> <p>・青果率向上対策としてJA高知はた全域で共同選果体制構築。市場評価が向上。</p> <p>・JAはた管内のユズ生産量・・・H19:488t→H23:642t(うち三原村H23:112t)</p> <p>○栽培維持・発展に向けた支援システムの構築(H21~)</p> <p>・三原村農業公社が農地を集積してユズ10ha、ブロッコリー1.2haの直接栽培を行い、常勤雇用6名を新たに雇用し、農作業受託・機械リース等を行うなど、中山間地域活性化のモデルケースとして期待されている。</p> <p>○三原村でのユズ生産量等(H24~)・・・H24生産量:90.8t、販売金額:12,515千円、栽培面積:31ha(うち公社15.6ha)</p> <p>○H24産振アドバイザー事業活用(加工施設導入に向けた課題の共有化)</p> <p>◆生産拡大に伴うユズ果汁過剰による加工用ユズ価格の低下、高齢者率の増加と後継者不足、新規生産者の確保、ユズ加工製品の増加による販売競争の激化などの課題がある。</p>	<p>・三原村農業公社を核とした農業支援システムの構築に向けてチームを編成、加工施設導入の課題共有化。</p> <p>・農業支援システムづくりについて、高知県緊急雇用創出臨時特例基金事業費補助金【重点分野雇用創出事業(18,990千円)、三原村ユズ販売拡大等事業(7,690千円)】、高知県産業振興ふるさと雇用事業費補助金(18,884千円)の実施。</p> <p>・ユズ生産推進事業費(3,140千円)(村単1/2補助)の実施。</p>
<p>5 「若山椿」ブランド復活プロジェクト</p> <p>《黒潮町》</p> <p>古くから地域で特産品となっていた「若山椿」の産地復活を目指した、栽培拡大および加工技術向上による産地・ブランド化に取り組む。</p> <p>【黒潮町、黒潮町佐賀北部地域協議会】</p>	<p>○椿栽培の推進(H20~)</p> <p>栽培面積(収穫量)・・・H21:32a(0.6t)、H22:37a(1.2t)、H23:39a(1.2t)、H24:59a(1.2t)〈うち遊休農地利用栽培面積11a〉</p> <p>○当初5年間(H20~24)の継続補助予定であった国事業(200万円×5年)が事業仕分けによりH21をもって終了。計画全体を見直し地道な活動に取り組む中、栽培面積も少しずつ増加している。</p> <p>○「若山椿が古文書修復に適している」として、専門分野からの発注もあるなど、今後に期待が持てる。</p> <p>◆活動継続等に係る地域内の検討不足</p> <p>◆活動経費の不足</p> <p>◆マンパワー不足</p>	<p>・高知県緊急雇用創出臨時特例基金事業活用</p> <p>・月1回ペースの活動検討会開催(～6月末:3回)</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
		<b>【指標】</b> 販売額1,500万円以上の農業経営体数 (H22: 2経営体)  <b>【目標(H27)】</b> 10経営体  <b>【H25到達点】</b> 3経営体
		<b>【指標】</b> 売上高 H23: 85,197千円  <b>【目標(H27)】</b> 128,300千円  <b>【H25到達点】</b> 108,600千円
		<b>【指標】</b> 環境にやさしい農業申請面積の増加 (H22: 約1,000a) 有機野菜の出荷率出荷量の増加 (H22: 約30%)  <b>【目標(H27)】</b> 申請面積 1,500a 出荷率 50%  <b>【H25到達点】</b> 申請面積 1,700a 出荷率 40%
・三原村の農業支援システムづくりについて、雇用の確保や推進課題のユズの産地化に向けた支援体制が整備され、平成27年度にユズの栽培面積50haへの面積拡大の方向性が定まった。		<b>【指標】</b> ユズ生産量 (H19: 65t) (H22: 74t) 栽培面積 (H19: 7.6ha) (H22: 22ha)  <b>【目標(H27)】</b> ユズ生産量 400t 栽培面積 50ha  <b>【H25到達点】</b> ユズ生産量 120t 栽培面積 37ha
・1名継続雇用(4/1~3/31)		<b>【指標】</b> 栽培面積 (H22: 37a) 椿収穫量 (H22: 1,232kg)  <b>【目標(H27)】</b> 栽培面積 60a 椿収穫量 2,900kg  <b>【H25到達点】</b> 栽培面積 71a 椿収穫量 1,855kg

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p><b>6 弘法大師ゆかりの七立栗 特産品化計画</b></p> <p>《黒潮町》</p> <p>黒潮町馬荷地区で栽培されている「七立栗」の生産を拡大し町の特産品にすることで、地域の活性化と産業の創出を目指す。</p> <p>【七立栗生産組合、黒潮町】</p>	<p>○七立栗栽培の推進(H21～)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出荷農家数(面積)・・・H21: 1戸(10a)、H22: 5戸(20a)、H23: 7戸(43a)、H24: 10戸(66a)</li> </ul> <p>○集荷場建設(総事業費441万:集落営農補助金:県・町・実施主体1/3ずつ)(H23)</p> <p>○当初計画していた温泉施設は、財源の問題より困難と判断した一方で、七立栗のブランド化については、栽培面積増とあわせて、集落営農導入及び基幹品目としての検討が始められた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆栽培面積、出荷量が少ない、単価が低い</li> <li>◆活動経費、マンパワー不足</li> <li>◆栽培方法、生産技術の向上、病害虫対策</li> <li>◆耕作放棄地の開墾難</li> <li>◆出荷場の有効活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・七立栗(枝栗)栽培技術の再検討(H25/5～6)</li> <li>・関係者間における現状・課題の情報共有(通算5回)</li> </ul>
<p><b>7 有望品目への転換を含めた、大方南部地域の産地再生</b></p> <p>《黒潮町》</p> <p>シュコンカスミノウ、テッポウユリの産地として知られる黒潮町南部地域において、灌漑事業の導入等による新たな花き・野菜等の生産により地域振興を目指す。</p> <p>【黒潮町、JA高知はた】</p>	<p>○シュコンカスミノウの品質向上対策として、バケット輸送や市場性の高い品種(アルタイル、マリーペール)への移行を推進(H21～24)</p> <p>○マーケティング調査により、小売り店が嗜好する品種の定着化を推進(H22)</p> <p>○新品目の栽培を推進(H21～24)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(H23園芸年度(H22.9～H23.8)=ダリア:4戸24a、テマリソウ:3戸26a)</li> <li>(H24園芸年度(H23.9～H24.8)=ダリア:4戸57a、テマリソウ:3戸40a)</li> </ul> <p>○南部地域での点滴栽培の検討と用水対策の具体的な検討開始(H23～)</p> <p>○H24園芸年度: 花き栽培面積: 18ha、野菜栽培面積: 2.7ha</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆慢性的な水不足より栽培可能な品目が少なく、シュコンカスミノウの代替品目もない。ダリア・テマリソウ・ニラ等は可能性があるが、用水対策・省水栽培技術の取組が必要である。</li> </ul>	<p>点滴灌水実証ほの継続実施(シュコンカスミノウ:1戸、ニラ:1戸)</p>
<p><b>8 森の工場・間伐の推進</b></p> <p>《幡多地域全域》</p> <p>意欲がある林業事業者が中心になり、一定規模のまとまりのある森林を対象に森林所有者から長期に施業を受託することによって、森林の管理や施業などを集約する森林経営の団地を「森の工場」として認定し、木材を安定的に供給する産地体制を確保するとともに、地域の森林資源の充実を図るための間伐を積極的に推進する。</p> <p>【森の工場の認定を受けた事業者】</p>	<p>○H21～H24に高性能林業機械等31台導入、作業道開設213kmの整備を行い、木材生産62,799m3を行った。(H21-23累計: 43,353m3+H24: 19,446m3=62,799m3)</p> <p>○森林施業プランナー養成研修を支援することにより森林施業プランナー10名体制が整った。森の工場は建設業の参入を含め26工場を新設した。(H21～23: 22工場+H24: 4工場)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆集約化の推進による森の工場の設置、基盤整備推進による木材生産性の向上、技術者の養成、事業者の経営改善</li> </ul>	<p>今年度事業計画策定 (森の工場5箇所、高性能林業機械購入5台・レンタル13台)</p>
<p><b>9 バイオマスを利用した木材の乾燥施設等の導入</b></p> <p>《四万十市》</p> <p>木材の乾燥及び加工施設の導入による木製品の品質向上を図るとともに、樹皮や端材などの木屑を熱源としたバイオマス利用システムの構築を目指す。</p> <p>【協同組合】</p>	<p>○長期にわたった協議により企業間の意思は統一されている</p> <p>○H24に1社が県単独事業で乾燥機1基を導入(H24末生産見込: 100m3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆乾燥材での供給が早急に望まれている</li> <li>◆西土佐村森林組合が単独で既存制度(森林整備加速化・林業再生事業)を活用する場合、中核森林組合の承認が必要であり、また、1企業が制度活用する場合、70%以上の原木供給協定が必要となる</li> <li>◆西土佐村森林組合は中期経営計画に基づき経営状況を改善中であり、乾燥施設導入は健全な財務状況となった時点で組合員の合意形成が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助事業等についての訪問指導の実施(3事業者各1回)</li> </ul>
<p><b>10 「四万十の家」と地域産ヒノキの販売の推進</b></p> <p>《四万十市》</p> <p>平成22年度に建築したモデルハウス「四万十の家」をPRすることで四万十ヒノキを利用した住宅建築を促進する。また、四万十ヒノキのブランド化を図り、地域内外への販売を促進する。</p> <p>【四万十市】</p>	<p>○H23.4月よりモデルハウス利用開始、当初目標以上の利用状況であり、今後、林業関連事業者の学習会場利用や一般利用等、より積極的な地域産ヒノキのPRが可能となった。</p> <p>○4市町村(四万十市、三原村、四万十町、中土佐町)による推進協議会の発足により、地域産ヒノキのブランド化に向けて組織体制を強化した。</p> <p>○H24.2月末工事着工件数: 15戸(申請件数26戸)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆各市町村の取組みを連携させる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報やHPIによる市産材利用促進事業PR</li> <li>・ふるさと雇用活用</li> </ul>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
		<b>【指標】</b> 栽培面積 (H19:10a)(H22:20a) 出荷量 (H22:6,120本)  <b>【目標(H27)】</b> 栽培面積 140a 出荷量 35,000本  <b>【H25到達点】</b> 栽培面積 80a 出荷量 20,000本
		<b>【指標】</b> 花き栽培面積 (H20園芸年度24.8ha) (H23園芸年度20ha) 野菜(ニラ)栽培面積 (H23園芸年度1.4ha)  <b>【目標(H27)】</b> 花き栽培面積 15ha 野菜栽培面積 6ha  <b>【H25到達点】</b> 花き栽培面積 18ha 野菜栽培面積 3ha
・新規森の工場:2箇所(6月末時点)		<b>【指標】</b> 森の工場の木材生産量 (H22 13,871m <sup>3</sup> )  <b>【目標(H27)】</b> 20,000m <sup>3</sup>  <b>【H25到達点】</b> 20,000m <sup>3</sup>
		<b>【指標】</b> 乾燥材生産量  <b>【目標(H27)】</b> 900m <sup>3</sup>  <b>【H25到達点】</b> 180m <sup>3</sup>
・10件の申請を受付(6/20現在) ・モデルハウス管理者1名雇用(4/1～)		<b>【指標】</b> 四万十の家 着工戸数  <b>【目標(H27)】</b> 30戸  <b>【H25到達点】</b> 25戸

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てで数量的に見える形で示すこと>
<p>11 町内の持続可能な山林資源を活用した製炭事業</p> <p>《大月町》</p> <p>町内の最高級のウバメガシや山林資源を活用して、古くから行われていた土佐備長炭の復活など、製炭の産業化を目指す。</p> <p>【大月町備長炭生産組合】</p>	<p>○H23、H24産業振興総合補助金を活用し、生産窯を6基設置(H23:2基、H24:4基)。町単補助の窯1基と合わせ、計7基(H25.3月末時点)。</p> <p>○生産者7名が備長炭生産に従事(H25.3月末時点)。</p> <p>○H24:出荷量 19,272kg</p> <p>○空戸における研修を延べ10名が終了。</p> <p>◆収益の多様化、販売チャネルの多角化</p> <p>◆当面の自主財源不足。(将来は生産規模拡大による手数料収入で十分に賄われる)</p> <p>◆原木の安定供給のため、契約山林と林業者の分散が必要</p> <p>◆生産量の増と質の向上が必要。</p>	<p>・H25県ふるさと雇用事業(総事業費:4,918千円)</p> <p>・国緊急雇用事業(H25事業費:5,850千円)</p>
<p>12 地域活性化のための魚加工・販売体制の強化・推進</p> <p>《宿毛市》</p> <p>宿毛市片島地区に施設を整備し、水産加工物製造・販売を展開することで、漁業者所得向上や、雇用創出、地産地消・外商を進めていく。</p> <p>【すくも湾漁業協同組合】</p>	<p>○H21産業振興総合補助金を活用し、加工施設・冷凍冷蔵施設・保冷運搬車両を整備、同年10月から製造・販売スタート。</p> <p>○H22:鮮魚フィレ12t、冷凍キビナゴ3.6t、H23:鮮魚フィレ約20t、冷凍キビナゴ約7t、H24:鮮魚フィレ約13トン、冷凍キビナゴ4.1トンと漁獲量により生産量が上下しやすい。</p> <p>○販売先として、学校給食や病院関係を中心に積極的な営業活動を行った結果、H21末の11社からH23年10月末時点で36社と、大幅に増加。学校や病院の栄養士からの評判も大変良く、今後の成長に期待。H24年は県外の出荷量が対前年比2.1倍と増加。</p> <p>◆原魚の安定調達による作業効率の向上、増産、販路拡大</p> <p>◆収益状況の明確化</p> <p>◆加工場の漁協担当者と加工員との意思疎通の強化</p>	<p>・H24整備の急速凍結施設でゴマサハ試験凍結</p>
<p>13 宿毛湾を中心とする地域水産物の流通・加工体制の推進</p> <p>《宿毛市》</p> <p>民間事業者による宿毛湾の魚の利用促進・消費拡大及び地元雇用の創出を目指す。</p> <p>【株式会社ビアーサーティー】</p>	<p>○H22産業振興総合補助金を活用し、施設整備。</p> <p>○売上高・・・H22:1.4億円、H23:1.6億円、H24見込:1.8億円</p> <p>○施設の規模拡大により衛生管理面の向上とあわせて、贈答用商品の製造や刺身用食材の提供が可能。</p> <p>○H24は贈答用商品のネット販売を開始し、さらに新商品を開発して販売した。</p> <p>◆従業員の確保(募集に対する応募が少ない)</p> <p>◆保管施設の確保</p>	<p>・春のタイフェアで宿毛をPR</p> <p>・高知県地域産品商談会(5/28)へ参加</p>
<p>14 民間企業との連携による水産物の販路拡大</p> <p>《宿毛市・大月町》</p> <p>漁協・民間会社連携による前処理加工施設を漁協市場付近に整備し、地元水産物の付加価値向上と販路拡大に向けた体制づくりに取り組む。</p> <p>【すくも湾漁業協同組合】</p>	<p>○H22産業振興総合補助金を活用し、加工施設(約120坪)・冷凍冷蔵庫・フィレマシン・真空包装機等を整備。震災の影響でH23.4月下旬から稼働。</p> <p>○アジフィレほかキビナゴやイワシ類を使用した惣菜を製造し、首都圏等の飲食企業へ出荷中。品質面での評価は高い。</p> <p>○H25年3月現在9名の雇用。</p> <p>○すくも湾漁協他からの原魚調達に関しては、加工方法の改良や原魚、メニューの多様化を図るなどして前年度より大幅増。その結果製造量、出荷量も増加。(H24すくも湾漁協他からの原魚供給高:24.6百万円)</p> <p>◆売上拡大と衛生管理体制の構築</p>	<p>・4/1~ハローワークでの求人募集(国の雇用創造事業)</p> <p>・漁海況情報(水揚げ量、浜値情報)の提供</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
・H25県ふるさと雇用で事務局1名雇用 ・国緊急雇用事業で2名雇用	・生産量:11.7t(H25年4月・5月) ・生産者:8名	<b>【指標】</b> 備長炭販売量・生産窯・生産者  <b>【目標(H27)】</b> 販売量 240t 生産窯 20基 生産者 20人  <b>【H25到達点】</b> 販売量 107t 生産窯 9基 生産者 9人
・試験の結果、急速凍結したゴマサバが切身商材の原料として使用できることを確認	・切身商材原料として、急速凍結ゴマサバ2.5tをストック(6/14時点)  <b>【H25.4～5月生産量】</b> 切身加工(フィレ含む):2,642kg 冷凍キビナゴ:761kg	<b>【指標】</b> 冷凍フィレ、冷凍キビナゴ生産量(H22) (冷凍フィレ12.3t) (冷凍キビナゴ3.6t)  <b>【目標(H27)】</b> 冷凍フィレ 30t 冷凍キビナゴ 15t  <b>【H25到達点】</b> 冷凍フィレ 19t 冷凍キビナゴ 10t
		<b>【指標】</b> 売上高 (H22:1.4億円)  <b>【目標(H27)】</b> 2.7億円  <b>【H25到達点】</b> 2.0億円
・雇用の創出2名(開発担当1名、パート1名)	・原魚供給高 対前年同期間の103%(4～5月分)	<b>【指標】</b> 原魚供給高  <b>【目標(H27)】</b> 1.19億円  <b>【H25到達点】</b> 1.03億円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>15 宿毛近海の水産資源を活用した地域ブランド確立・推進事業</p> <p>《宿毛市》</p> <p>ブリやカツオ等、宿毛近海で獲れる魚を活用し、消費者ニーズに基づく商品開発・生産体制充実・販売促進に取り組むことで、地域ブランド確立および原材料そのものの付加価値化を図る。</p> <p>【株式会社 沖の島水産】</p>	<p>○H22県「弥太郎！ 商人塾」の玉沖クラスに参加し「ぶりかけ」を開発。</p> <p>○H23県「弥太郎！ 商人塾」の臼井クラスに参加。</p> <p>○H23地域アクションプラン追加。県ステップアップ事業による急速冷凍庫の整備及び商品パッケージデザイン、販売促進等実施。</p> <p>○H24ギフト商品等、新たな取引開始12件(百貨店など)</p> <p>○ギフト商品(3,500円～5,000円)3,500セット販売</p> <p>○売上高・・・H23:19,290千円、H24見込:40,311千円</p> <p>◆鮮魚だけでなく広く市場を広げる。</p> <p>◆通年販売可能な体制づくり。</p> <p>◆消費者ニーズに合わせた新商品の開発や現状商品の見直し。</p>	<p>・県外催事等への出展による販促活動(販路拡大)の実施</p> <p>・産業振興推進総合補助事業審査会(7/1付採択)</p> <p>・「目指せ弥太郎！ 商人塾」臼井クラスに申込み</p>
<p>16 サメ漁業の復活に向けた取組</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>サメ肉の加工品の開発と販路開拓により、サメ漁業が成立する浜値で取引される仕組みを構築するとともに、サメによる漁業被害の軽減を図る。</p> <p>【土佐清水市水産振興協議会】</p>	<p>○漁獲されたサメを安定した価格で買い上げ、加工商品とすることで、サメ漁業復活のきっかけづくりとなった。</p> <p>○H22産業振興総合補助金を活用し、商品開発を継続。サメ肉で主にペットフードを開発して、従来販売されている商品に比べ、宗田節加工場で加工することによってアンモニア臭が抑えられ、ペットの嗜好性が非常に高いものに仕上がった。</p> <p>○ペットフードについて、大手ペット用品業者との商談の結果、商品開発(ネーミング及びパッケージ)・販売の協力が得られ、H23年9月の展示・商談会以降、約6000パックの注文があり、今後の販売増に期待が持てる。</p> <p>○製造ラインにおける様々な課題については、解決に向けて一定目途がたつた。</p> <p>・H24年度サメ漁獲量:約1t</p> <p>◆ペットフードの安定した販売量の確保</p> <p>◆ペットフード販売数の伸び悩み原因の解明</p> <p>◆取組全体のコーディネータ役の育成</p>	
<p>17 宗田節の販路拡大に向けた取組</p> <p>《土佐清水市》</p> <p>宗田節加工業は、蕎麦屋等の業務用需要に支えられてきたが、食の多様化等により需要が減少しているため、一般消費者を直接ターゲットにした商品開発や宗田節のPR等を展開し、消費の拡大を図る。</p> <p>【宗田節をもっと知ってもらいたい委員会、土佐清水市】</p>	<p>○宗田節をもっと知ってもらいたい委員会(H22設立)が、県内を中心とした宗田節のPR活動を展開し、宗田節の認知度が一定向上した。</p> <p>○(株)土佐清水元気プロジェクトが新商品の開発に取り組み、H23年度に4品目、H24年度に3品目が完成し、販売を開始した。</p> <p>○H24新商品売上見込:850万円(7アイテム)</p> <p>◆宗田節新商品を活用した県外の認知度向上に向けた情報発信</p> <p>◆宗田節新商品の販売拡大</p>	<p>・宗田節をもっと知ってもらいたい委員会開催(4/22)</p> <p>・ハード整備に係る工業技術センターとの協議(5/9)</p> <p>・産業振興推進総合支援事業補助金審査会(5/22)</p>
<p>18 “川辺の暮らし”を支える豊かな四万十川再生プラン</p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十川の恵みを支える汽水域を中心とした河川環境や漁業資源を継続的にモニタリングしながら、流域住民が四万十川の漁業資源を持続的に利用できるようマネジメントできる枠組みを作っていく。</p> <p>あわせて、アユやアオノリをはじめ、四万十川の恵みを地域外に付加価値を付けて売り出す方策を探っていく、“川辺の暮らし”が持続的に営まれるようになっての豊かな四万十川の再生を目指す。</p> <p>【四万十市、四万十市高知大学連携事業推進会議、四万十川下流漁業協同組合】</p>	<p>○アユやスジアオノリの枯渇原因については、多くの要因が言われてきたが、四万十市と高知大学が連携して科学的な原因究明に乗り出し、「汽水域シンポジウム」や連携事業の報告会を介して、関係機関や地域住民と情報交換を行う事で、徐々にではあるが原因究明や資源復活に向けての協力体制が出来つつある。</p> <p>○H21年より試験的にははじめた下流漁協のアオノリやアオサノリの製造・販売事業について、H23年10月に六次産業化法に基づく総合化事業計画の二次認定を受け、H24年8月には補助金も交付され、販路開拓や商品開発についても、一定目途が立った。</p> <p>◆アユやスジアオノリの天然資源が長期低落傾向にあり、その枯渇原因の究明と有効な対策が急務である。</p> <p>◆漁業関係者との情報共有の強化</p>	



<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
		<b>【指標】</b> 売上高 (H22: 8,000千円)  <b>【目標(H27)】</b> 11,700千円  <b>【H25到達点】</b> 50,000千円
		<b>【指標】</b> 年間のサメ漁獲量 (H22: 1.4t)  <b>【目標(H27)】</b> 10t  <b>【H25到達点】</b> 1.5t
		<b>【指標】</b> 宗田節新商品の売り上げ  <b>【目標(H27)】</b> 2,700万円  <b>【H25到達点】</b> 1,916万円
		<b>【指標】</b> スジアオノリ、アオサノリの漁協販売金額 (H22: 49万円)  <b>【目標(H27)】</b> 625万円  <b>【H25到達点】</b> 90万円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>19 キビナゴ加工商品の生産体制強化 《大月町》</p> <p>大月町の地域資源の一つであるキビナゴを活用した商品加工体制の基盤強化を図るとともに、大月町道の駅等との連携による県内外の販売促進活動を行う。このことにより、キビナゴの消費拡大、雇用拡大、連携先の売上増等につなげる。</p> <p>【八重丸水産】</p>	<p>○加工場の改修、攪拌機整備(H23)、県外展示会への出展(H24、東京・大阪) ○ゆず味(H23)、塩麹味(H24)の商品化 ○販促資材の充実(H24) ○平成24年きびなごケンピ販売袋数118千袋(22年比222%) ○平成23年度高知県地場産業奨励賞受賞 ○ファストフィッシュ商品に認定(H24) ○パッケージリニューアル、45g(プレーン、塩麹)、100g(プレーン)(H24) ◆キビナゴ原魚は、天然水産物のため収量が安定しない。 ◆生産に追われ、販促営業ができていない。 ◆中期的な経営計画、方針の策定</p>	<p>・販路開拓 ・日曜市での販売</p>
<p>20 大月町種苗生産施設活用による県内産養殖種苗のシェア拡大 《大月町》</p> <p>大月町種苗生産施設の県内民間事業者による活用を図り、養殖用種苗としてのマダイ・シマアジの増産による市場シェアの拡大、カンパチ等新魚種の生産技術確立によるビジネスチャンスの拡大を目指す。</p> <p>【大月町、(株)山崎技研】</p>	<p>○H24.4月～ 大月町種苗生産施設貸付契約締結 ○H24産業振興総合補助金を活用し種苗の海上育成用施設整備(H24.9月) ○雇用の創出6名(H25.3月現在) ○H24.4月～ 放流用種苗の生産(ノコギリガザミ約4,200尾、イサキ約30万尾) ○H24.11月～ マダイ、シマアジの生産開始 ○H24.12月～ カンパチ人工種苗生産試験開始 ◆種苗生産における最適な生産時期、環境要因の把握 ◆試験研究機関との連携によるカンパチ人工種苗生産技術の確立</p>	<p>・放流用種苗(ノコギリガザミ、イサキ)の生産 ・シマアジの種苗生産</p>
<p>21 直七の生産、加工、販売の促進 《宿毛市》</p> <p>地元柑橘の一種である直七をはじめとした地域農産物の加工・販売を推進することで、雇用創出、農家所得向上、地域活性化を図る。</p> <p>【直七生産組合、直七の里(株)】</p>	<p>○生産組合の設立(H21) ○搾汁施設等の整備(H22:産業振興推進総合支援事業) ○新商品の開発、商品パッケージの見直し(H22～23) ○直七生産量(果実ベース)・・・H20:13t、H22:21t、H23:36t、H24:66t ◆生産拡大に向けた取組 ◆新商品の開発 ◆販路の拡大 ◆商品の製造</p>	<p>・産業振興推進ふるさと雇用事業費補助金の活用(事業費2,960千円) ・地域産品商談会(5/20)へ参加 ・大阪三越伊勢丹での高知フェア(6/19～25)に出展</p>
<p>22 地域の素材を活用した「おいしいもの」づくり 《宿毛市》</p> <p>地域の特産である柑橘類や焼酎等を活用した新たなスイーツづくりをはじめ、宿毛湾で獲れた魚や牛肉、豚肉を活用した商品開発や生産拡大のための施設整備を行うことにより、地域生産者の所得向上を目指す。</p> <p>【有限会社 与力、幡多美味工房】</p>	<p>○商品製造施設整備(H23:創業支援助成金事業) ○新商品の開発(H23:農商工連携事業) ○販路の開拓(H23) ○雇用の確保(H23:創業支援助成金事業) ○ハレノヒぶりん、2012モンドセレクション銅賞受賞 ○H24末現在商品数:10アイテム ◆販路拡大</p>	<p>・高知県緊急雇用(委託期間:4/1～3/31) ・量販店(高知市、松山市)で、幡多フェア「幡多のうまいもの市」に参加</p>
<p>23 土佐清水市地域再生計画(大岐地区等の開発計画) 《土佐清水市》</p> <p>地域資源としての「食」の再生・活性化を官民協働のもと、地域が一体となって実施するとともに、大岐・三岐地区開発による施設整備等への取組と併せて、雇用の創出と地域の再生を推進する。</p> <p>【土佐食(株)、土佐清水市】</p>	<p>○原魚取扱量及び販売額も順調に成果を上げており、また、雇用についても十分に成果を出している。(～H24) ○産業振興総合補助金を活用し、機器等を導入したことで、ペットフード安全法改正に適應でき、かつ新商品開発も可能となった。(H22～24) ◆売上全体の1割程度に留まっている食品部門の販売拡大。</p> <p>【指標及び目標(H27)に対するH24実績並びにH25目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用人(臨時・パートを含む):(H23)190人→[H24]195人⇒[H25]200人</li> <li>・地元水産物の活用:(H23)約3,000t→[H24]約3,100t⇒[H25]約3,300t</li> <li>・売上額:(H23)14.76億円→[H24]15.7億円⇒[H25]17億円</li> </ul>	<p>・H23.3.21より高温高圧調理殺菌装置2基及び液充填式自動真空包装机2基を活用した商品生産。(H22産振総合補助金導入機器) ・新商品(食品)の開発。</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
・販売袋数 1～3月:27,813袋 4～5月:23,828袋	・H25販売袋数 51,641袋(H25.1～5月末現在) (前年比7.6%増)	<b>【指標】</b> きびなごケンピの販売袋数 (H22:5.3万袋)  <b>【目標(H27)】</b> 14.2万袋  <b>【H25到達点】</b> 13.2万袋
・ノコギリガザミ種苗生産量 27,000尾 ・シマアジ種苗生産量 約300,000尾	・地域貢献として浦戸湾へ放流 (ノコギリガザミ27,000尾) ・シマアジ販売 約5.7万尾	<b>【指標】</b> マダイ、シマアジ種苗生産尾数  <b>【目標(H27)】</b> マダイ 100万尾 シマアジ 50万尾  <b>【H25到達点】</b> マダイ 40万尾 シマアジ 30万尾
・営業職員の1名雇用(流通業経験者) ・セブンイレブンの夏ギフトでボン酢4本セット売出し ・551蓬莱で夏ぶたまんにボン酢採用決定		<b>【指標】</b> 直七果実生産量 (H19:4t) (H22:21t)  <b>【目標(H27)】</b> 100t  <b>【H25到達点】</b> 70t
・雇用1名		<b>【指標】</b> 新商品の開発  <b>【目標(H27)】</b> 87アイテム  <b>【H25到達点】</b> 107アイテム
・食品の取引店舗数:(5月末累計)266店舗 [四国内5割、四国外5割] ・新商品(食品)販売:1アイテム	・雇用者全体:(5月末累計)195人 ・水産物の活用:(5月末累計)約1,500t	<b>【指標】</b> 雇用者(臨時・パートを含む) (H19:124人) (H22:170人) 地元水産物の活用 (H19:2,079t) (H22:2,580t) 売上額 (H22:13.6億円)  <b>【目標(H27)】</b> 200人、2,800t、15億円  <b>【H25到達点】</b> 200人、3,300t、17億円

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

< 幡多地域 >

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p><b>24 地域資源を統括したプログラム構築によるしみずの元気再生事業</b></p> <p>《土佐清水市》</p> <p>大岐地区に整備される加工施設に生産者が参画できる仕組みづくりや加工された商品を市内外の市場に流通及び販売する仕組みを構築する。また、加工品の一般消費者向けの個別配送、海外への販路拡大など、地域資源を活かした経済の活性化を推進する。</p> <p>【(株)土佐清水元気プロジェクト、土佐清水市】</p>	<p>○産業振興総合補助金を活用し、農産物の集出荷システムを構築。農業者の所得向上や、水産物の冷凍事業を行うことでの漁業者の所得向上にもつながっている。(H21～24)</p> <p>○特産品の開発と統一ブランド作りでは、約30種類の商品を販売。(H22～24)</p> <p>○産業振興センター助成事業(農工商連携事業化支援事業)を活用し、商品開発。6種類の商品化が実現し販売を開始。(H23～24)</p> <p>○産業振興センター助成事業(経営革新計画支援事業)を活用し、OEM生産体制づくり並びに商品開発。2種類の商品化が実現し販売を開始。(H24)</p> <p>◆売れ筋商品の(開発を含めた)販売拡大。 ◆直営店等の経営安定。 ◆集荷農産物の品質向上。 ◆加工用農産物の契約栽培の推進。 ◆付加価値農産物の生産。 ◆えさ事業の推進。</p> <p>【指標及び目標(H27)に対するH24実績並びにH25目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用者(臨時・パートを含む):(H23)55人→[H24]55人⇒[H25]56人</li> <li>・地元農産物等の活用:(H23)約74t→[H24]約83t⇒[H25]約120t</li> <li>・売上額:(H23)1.32億円→[H24]1.1億円⇒[H25]1.8億円</li> </ul>	<p>・直営レストラン運営39ヶ月継続。(海の駅改修工事に伴い、H23.1.11～H23.3.31までの間、一時休業)</p> <p>・県内外催事等での販促PR活動。(大阪府:1回)</p> <p>・市内外イベントにて出店。(市内:1回)</p> <p>・経営革新計画支援事業費助成金:(H25分)1,826千円(事業費:3,835千円)</p> <p>【OEM生産事業の取り組み強化】</p>
<p><b>25 地元農産物を使った商品開発事業</b></p> <p>《四万十市》</p> <p>農業と製造業が連携し、相互のノウハウを活かした新商品を開発・販売することにより、地産地消・外商および地域の活性化を推進する。</p> <p>【四万十市】</p>	<p>○商品開発・販売(H22～)市農工商連携支援及び県ステップアップ事業により、事業者の要望やレベルに応じた支援の結果、4プロジェクト、10アイテム17種類(H24年度末時点)の新商品が完成・販売中。それぞれの販促活動により、都市部の販路獲得という成果も得られている。</p> <p>○実績から得られた経験を活かした新たな商品開発のほか、各プロジェクト事業者間相互の情報交換やアドバイス、ネットワークも構築されつつある。</p> <p>◆新規農工商連携プロジェクトの掘り起こし ◆商品PRと販路拡大(地域内外への販売戦略) ◆生産体制の確立(加工設備の高度化検討、原材料確保のための連携強化)</p>	<p>・検討チーム会開催 合計6回</p> <p>・高知空港ほか各種イベントでの販促活動 合計5回実施</p>
<p><b>26 「いちじよこさん市場」を拠点とした中心市街地活性化の推進</b></p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十市一条通商店街のスーパー跡地を利用して整備された「いちじよこさん市場」を拠点に、地元の素材を活用した食育の啓発・地産地消の交流拠点として、商店街の活性化を図る。</p> <p>【まちづくり四万十(株)】</p>	<p>○四万十市中心市街地活性化の一環として、地産地消を推進する「食育プラザ」開店(H21.9～)</p> <p>・「中小企業基盤整備機構」の支援を受け、集荷・販売・経営全般を改善(H21～H23)</p> <p>・H23産業振興総合補助金を活用し、店舗内外装の全面改修。</p> <p>総菜部門を追加し、施設名称を「いちじよこさん市場」に変更してH23.9.27ランドオープン。販売額の向上と経営安定に取り組んでいる。</p> <p>・集荷業務は70名に対応しており、定着してきている。</p> <p>・ランドオープンとともに開始した総菜販売について、総菜提供数が200前後となっており、売上も順調に推移している。</p> <p>◆1. 目標販売額の達成、2. 集荷・宅配業務の継続、3. 催事、交流スペースの有効活用</p>	<p>・営業時間を1時間延長(5月～) 9:00～18:00→9:00～19:00</p> <p>・ポイントカードの発行(5月～)</p>
<p><b>27 栗からはじまる西土佐地産外商プロジェクト</b></p> <p>《四万十市》</p> <p>西土佐地区の栗園再生に向け、「より高く、より多く売るしくみ」と「栽培しやすい環境づくり」を平行して取り組むことで、地域内外を巻き込んだ新しい地域ビジネスを目指す。</p> <p>【(株)しまんと美野里、四万十川を良くする会、四万十市、西土佐商工会】</p>	<p>○H21「(株)しまんと美野里」設立。H22産業振興総合補助金を活用し、加工施設、氷感庫(凍らせない冷凍保存庫)を導入し、H23.1月より稼働開始</p> <p>○栗栽培支援として、H23.9月に支援組織「四万十川を良くする会」を設立</p> <p>○H24 原材料仕入量:8.9t、加工品製造量4.2t</p> <p>○H24産振アドバイザー活用により、加工・在庫管理を見直し</p> <p>◆前年度をふまえた全体計画の策定と、受注～原料確保～加工～販売の各作業に見合ったスケジュールと体制の確立</p>	<p>・ふるさと雇用活用</p> <p>・新商品新サービス開発支援事業(全国商工会連合会)(4/26付採択、総事業費154万、補助率2/3)</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規取引業者数: (5月末累計) 5社                [全体: 144社(県内71社、県外73社)]</li> <li>・OEM生産商品: 6アイテム</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集出荷の登録農家数: 151戸                (昨(H24)年度と比べ1戸増)</li> <li>・下ノ加江冷凍施設利用漁業者数: 54人                (昨(H24)年度と同じ)</li> <li>・下ノ加江冷凍施設収入:                (H24実績) 約33百万円                →(H25目標) 約49百万円</li> <li>・雇用者全体: (5月末累計) 55人                (昨(H24)年度と同じ)</li> <li>・農産物等の活用(5月末累計): 約21t                (前年度同期比約58%)</li> <li>・売上額全体: (5月末累計) 約0.2億円                (前年度同期比約95%)</li> </ul>	<p>【指標】            雇用者(臨時・パートを含む)            (H22: 55人)            地元農産物等の活用            (H22: 86t)            売上額            (H22: 1.18億円)</p> <p>【目標(H27)】            70人、100t、2.5億円</p> <p>【H25到達点】            56人、120t、1.8億円</p>
		<p>【指標】            新商品の開発            (H22: 7アイテム)</p> <p>【目標(H27)】            15アイテム</p> <p>【H25到達点】            13アイテム</p>
		<p>【指標】            雇用者数            (H22: 常勤2名)            (H22: パート5名)</p> <p>【目標(H27)】            常勤 3名            パート 7名</p> <p>【H25到達点】            常勤 3名            パート 8名</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フルタイム雇用1名、パートタイム雇用1名(4/1～)</li> </ul>		<p>【指標】            栗加工品製造量(H22: 1.5t)            原材料(生栗)の仕入量(H22: 2.5t)</p> <p>【目標(H27)】            製造8t            仕入12t</p> <p>【H25到達点】            製造6t            仕入10t</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p><b>28 四万十牛の商品開発・販売</b></p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十市西土佐地域の畜産家・農家・加工業者が連携し、四万十川にこだわった加工商品を開発・製造・販売することで、地域内外での売上を拡大する。</p> <p>【横山精肉、西土佐中央牧場、西土佐ふるさと市組合】</p>		<p>・国農工商連携事業計画承認(H25.3/9付承認)</p> <p>・商品化にむけた補助制度導入(全国商工会連合会事業 4/26付採択)</p> <p>(新商品新サービス開発支援事業 総事業費390万、補助率2/3)</p>
<p><b>29 西土佐拠点ビジネス推進事業(売り出せ西土佐プロジェクト)</b></p> <p>《四万十市》</p> <p>各種団体や地域産業従事者など多様な人材・組織が連携し、地域産品・加工品の開発・販売、体験交流推進、情報発信、施設整備等を行い、幡多地域の北の玄関口としての総合発信拠点を作り、地域の活性化を目指す。</p> <p>【四万十市、西土佐商工会、地域事業者等】</p>	<p>○道の駅基本計画策定(H25.3月)</p> <p>拠点施設開店(H27予定)をめざし、地域事業者を含めた検討を重ねH25.3月に基本計画を策定した。</p> <p>○H24新商品開発数:5商品(累計:11商品)</p> <p>拠点施設開店を見据え、地域事業者それぞれが商品開発に着手している。</p> <p>◆運営体制の構築</p>	<p>・ふるさと雇用活用</p>
<p><b>30 拠点ビジネスの推進(大月町まるごと販売事業)</b></p> <p>《大月町》</p> <p>ふれあいパーク大月を拠点に、特色ある地域資源を活用した拠点ビジネスモデルの構築に向けた事業展開を図る。</p> <p>【(財)大月町ふるさと振興公社】</p>	<p>○H21、22と産業振興総合補助金を活用し、生鮮食品の鮮度保持用施設の改修、インターネット通販、カタログ販売の仕組みづくりなどにより、販促活動を充実・強化。大手百貨店や生協など県外での販売も拡大。所得向上及び道の駅のにぎわいづくりにつながっている。</p> <p>○販路拡大・販売促進(H21～24)の結果、ひがしやま関連商品、へらずし、塩麴漬など、売れ筋商品が出てきている。</p> <p>○外商拡大対策として、町内の他事業者と「大月まるごと販売プロジェクト」を立ち上げ、連携した販売促進を開始。</p> <p>○目標に対する実績 (H23:1.77億円)(H24:1.81億円見込)</p> <p>◆売れ筋商品の生産体制の充実(地域での仕組みづくり、加工場の充実など)</p> <p>◆将来を見据えた、販売戦略づくり</p> <p>◆道の駅のにぎわいづくり継続</p>	<p>・緊急雇用事業:情報発信(事業費:3,705,144円)</p> <p>・緊急雇用事業:移住(事業費:2,864,517円)</p>
<p><b>31 苺を核とした6次産業化</b></p> <p>《大月町》</p> <p>大月町の新しい加工品として注目されている苺水りの販売拡大および新商品開発により、苺を大月町の新しい特産品として育成し、生産～加工～販売の一貫体制の構築を目指す。</p> <p>【農業生産法人 苺水り本舗株式会社】</p>	<p>○H22産振総合補助金を活用し、販促活動に取り組んだ結果、販売店舗数も120店舗超、雑誌やメディアでの露出機会も多くなるなど、地域を代表する企業となりつつある。</p> <p>○ご当地水りの開発(シークワサー、みかん、ゆず、ホイセンベリー、)(H22-24)</p> <p>○3種類のハーブティーの商品化(H23)</p> <p>○OEM商品、抹茶水りの商品化(H24)</p> <p>○H24苺水り販売4,722万円、新商品販売355万円</p> <p>◆苺水りの販路開拓</p> <p>◆生産施設の拡大</p>	<p>・販路開拓に向けた営業活動(スタジアム、競技場、SA、みやげ物店)</p>
<p><b>32 月光桜からはじまる「牧野富太郎のみち」づくり</b></p> <p>《大月町》</p> <p>地域資源のひとつである牧野富太郎の足跡を活かし、観光振興を図るとともに、牧野富太郎や植物に関連した商品開発に取り組み、モノづくりによる起業や地域活性化を目指す。</p> <p>【大月町アウトソーシング研究会、四万十かいどう推進協議会大月支部】</p>	<p>○商品開発(コースターやクッキー)や展示会参加等の販路拡大(H23)</p> <p>○各種観光イベントの実施(H23)</p> <p>○緊急雇用事業を活用した月光桜周辺整備やイベントの実施(H24)</p> <p>○H24実績 観光客受入数:707名、商品数:24アイテム、販売金額:約139万円</p> <p>◆商品づくりの方向性の検討(通年売れる商品づくりと既存商品のブラッシュアップ)</p> <p>◆受け入れ側の人づくり、人集め</p> <p>◆地域イベントとしての定着</p> <p>◆資金の確保については全体にわたる課題</p>	<p>・イベントの開催(ウォーキング、夜桜音楽会)</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
		<b>【指標】</b> 新商品売上高 <b>【目標(H27)】</b> 6,000千円 <b>【H25到達点】</b> (商品開発数:1アイテム) ※新商品はH26～販売開始予定
・雇用2名(4/1～1年間)		<b>【指標】</b> 商品数 (H22:6商品) 雇用者数 (H22:パート2人) <b>【目標(H27)】</b> 14商品 正規2名+α <b>【H25到達点】</b> 15商品 正規2名
・緊急雇用事業で2名雇用		<b>【指標】</b> ふれあいパーク大月売上額 (H19:1.38億円) (H22:1.69億円) <b>【目標(H27)】</b> 2.5億円 <b>【H25到達点】</b> 2億円
・直契約15件、OEM納入先20件		<b>【指標】</b> 苺氷り販売 (H22:4,409万円) 新商品販売 (H22:1.2万円) <b>【目標(H27)】</b> 苺氷り 7,000万円 新商品 300万円 <b>【H25到達点】</b> 苺氷り 5,980万円 新商品 504万円
・観光客受入れ 234名		<b>【指標】</b> 商品数(H22:197アイテム) 販売目標(H22:125万円) 観光客受入数(H22:444人) <b>【目標(H27)】</b> 317アイテム 400万円 1,000人 <b>【H25到達点】</b> 297アイテム 200万円 800人

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p><b>33 黒潮印の商品開発</b></p> <p>《黒潮町》</p> <p>天日塩、黒砂糖など、黒潮町の安全で質の高い基本調味料と地域資源とを組み合わせることによって、付加価値の高い農林水産加工商品を開発する。また遊休農地を活用したサトウキビ等の栽培、企業への安定供給や加工による商品化などを進め、地域の雇用の場の創出と所得の向上を図る。</p> <p>【黒潮町・黒潮町特産品開発推進協議会】</p>	<p>○23年度より、精糖新工場の稼働に合わせ、かりんとうを本格販売。ラッキョウ漬は県内大手スーパーでの販売開始。24年度は黒糖、らっきょう製品のアイテム数の増加と取引先の増加で11,783千円(H23:9,502千円)の売り上げとなった。</p> <p>○24年度に町単事業として、産業振興推進総合支援事業の創設及び黒潮印のブランド認証事業をスタートさせたことにより、外商活動の推進や商品の磨き上げにつながった。</p> <p>◆しかし、加工施設としては不十分な面があり、商品開発や製品化に苦勞を強いられている。また、運営主体の法人化が24年度中に実現しなかったことなど、経営環境は厳しいものが残っており、早急の解決が求められている。そのための課題は以下のとおり。</p> <p>◆より効率的な生産体制と設備の充実</p> <p>◆主力商品である黒糖、ラッキョウ漬の生産量拡大</p> <p>◆食品加工に対する専門知識の習得</p> <p>◆運営組織の強化</p> <p>◆獲得利益率の高い販路の開拓</p>	<p>・サトウキビ栽培面積 354a(H24:354a)</p> <p>・らっきょう仕入量1.6t(H24:2.3t)</p> <p>・ホテル、コンビニ、百貨店への販促(ショウガ梅酢漬、ラッキョウ、黒糖)</p> <p>・(町単)産業推進事業公募開始(4月～)</p>
<p><b>34 カツオ文化のまちづくり事業</b></p> <p>《黒潮町》</p> <p>日本一のカツオ漁獲高を誇るカツオ一本釣り船団を有する黒潮町佐賀地域において、カツオを使った漁師町ならではの味の提供、新商品開発、PR等の取組を進めることによって、「カツオ文化のまち」としてのブランド化を図り、所得の向上につなげる。</p> <p>【黒潮町商工会、黒潮町、高知県漁協】</p>	<p>○カツオ新商品の開発およびPR強化(H21～)</p> <p>○マリンエコラベル認証取得(H23)</p> <p>○黒潮一番館の施設改修(H22)および通年営業化(H23.3～)</p> <p>○水揚奨励交付金制度創設(H24.4～)、新荷捌・鮮度維持システムの導入(H24.4～)</p> <p>○“ぐるなび”を活用した飲食店へのPR</p> <p>○県産業振興総合補助により商品開発・施設拡充を、水産関連事業により活餌支援・水揚増支援・PR強化等に取り組んだ結果、コンビニでのタタキ贈答セットやグルメサイト掲載、黒潮一番館通年営業化等、「カツオのまち土佐佐賀」の認知度向上に向け着実に進んでいる。交流人口(H24見込:17,759人)</p> <p>◆黒潮一番館のさらなる活用方法及び佐賀みちの駅との連携</p> <p>◆もどりカツオ祭の継続開催・規模拡大(H25楽しまんと！はた博関連イベント)</p> <p>◆「日戻りカツオ」の活用方法(観光との連携)</p>	<p>・黒潮一番館の休館日(火曜日)を活用した地域特産品の販売市(びりびり市)の開始(4/2～)</p>
<p><b>35 佐賀地区の地域資源を活用した拠点ビジネスの推進</b></p> <p>《黒潮町》</p> <p>地元の魚介類や農産物を使ったレストランや、農林水産物加工品の直販、幡多地域の観光などの情報発信機能を有する施設を黒潮町佐賀地区に整備し、地域が主体的に運営することで、地域の魅力の発掘・発信や消費の拡大、交流人口の拡大を図る。</p> <p>【黒潮町】</p>	<p>○用地買収完了(H24.5)</p> <p>○造成工事完成(H25.2)</p> <p>○施設詳細設計完了(H25.3)</p> <p>○運営体制の確立(運営主体の決定、株式会社定款案の承認)</p> <p>◆運営団体法人化に向けた取り組み</p> <p>◆黒潮一番館やビオスおおがた等、関係団体との連携・強化</p>	<p>・道の駅整備工事契約締結 主体、電気、外構工事(一括発注)・・・6/10契約(工期:6/11～1/31)</p> <p>・機械工事・・・6/5契約(工期:6/6～1/31)</p> <p>・道の駅設立準備委員会開催 道の駅の名称案決定・・・なぶら土佐佐賀</p> <p>・ワーキング委員会開催 直販所の仕組みの確立や黒潮一番館との連携等について検討</p>
<p><b>36 水産物加工施設整備事業</b></p> <p>《黒潮町》</p> <p>これまで以上の衛生管理・品質管理が可能で、生産拡大が図れる水産物加工施設を整備することにより、さらなる販売拡大を目指す。それにより、地域内の漁業者の所得拡大を図る。あわせて、生産従事者の技術力向上、営業面での充実を行い、地域での雇用を拡大する。</p> <p>【(有)土佐佐賀産直出荷組合】</p>	<p>○産振ステップアップ補助金の活用(H24)</p> <p>○地域産業資源活用事業計画(経済産業省)に認定(H24.6)</p> <p>○新商品の開発(H24.12～きびなごペースト販売)</p> <p>○むらおこし特産品コンテスト(全国商工会連合会)にて、きびなごファイルが「審査員特別賞」を受賞(H24)</p> <p>○「調味料選手権2012～新定番調味料を探せ～」にて、きびなごファイルが「サラダ部門」入賞(H24)</p> <p>○取引業者数:H23:40社、H24:60社</p> <p>○雇用状況:H24:常勤6名</p> <p>◆加工体制の強化</p> <p>・施設新設・規模拡大</p> <p>・各種機器類の導入</p>	<p>・県外フェアへの出展(6月末現在:6回)</p> <p>・新施設整備に向けての取り組み(1回)</p>



<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
		<p>【指標】            特産協売上            (H19 107万円)            (H22 430万円)            サトウキビ栽培面積            (H19 250a)            (H22 270a)            体験者数</p> <p>【目標(H27)】            売上 3,000万円            栽培面積 350a            体験者数 500人</p> <p>【H25到達点】            売上 1,600万円            栽培面積 360a            体験者数 50人</p>
		<p>【指標】            交流人口            (H19:8,700人)            (H22:12,000人)</p> <p>【目標(H27)】            16,000人</p> <p>【H25到達点】            18,000人</p>
		<p>【指標】            雇用者数</p> <p>【目標(H27)】            正規 1名            パート 7名</p> <p>【H25到達点】            パート 10名</p>
		<p>【指標】            新規雇用</p> <p>【目標(H27)】            5名</p> <p>【H25到達点】            3名</p>

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

＜幡多地域＞

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 〈これまでの主な成果：○ 課題：◆〉	インプット(投入) 〈講じた手立てが数量的に見える形で示すこと〉
<p><b>37 幡多広域における滞在型・体験型観光の推進</b></p> <p>《幡多地域全域》</p> <p>幡多地域におけるコーディネート組織として、質の高い体験プログラムづくりや人材育成、民泊など受入体制の充実強化、それらを活用した周遊ルートなど、商品造成、販売誘致促進を図り、幡多地域での滞在型・体験型観光の推進を目指す。</p> <p>【(一社)幡多広域観光協議会】</p>	<p>○H22～法人化及び旅行業取得。従来の教育旅行に加え一般客もターゲットに、商品の掘り起こしや磨き上げ、目指すべきビジョン・戦略づくり、人材育成、誘客活動等、地域観光のコア組織となるべく取り組んできた。</p> <p>○H25.1月に県職員を事務局長として受入、H25.3旅行業取扱管理者資格を持つJTB職員を誘致受入専門監として雇用し事務局体制を強化(H24実績(H25.2末現在)・・・教育旅行:9団体1855名、一般旅行:2団体77名)</p> <p>◆教育旅行受け入れ増の取り組みと一般旅行商品造成・販売の推進</p> <p>◆幡多地域観光キャンペーンによる観光客の誘致促進と幡多広域観光協議会を中心に地域が一体となった観光振興推進体制の構築</p>	<p>・モニターツアー実施(6末計:1回)</p> <p>・インストラクター研修の実施(6末計:2回)</p> <p>・地域博覧会「楽しまんとはた博」企画・運営・PR</p>
<p><b>38 竜串観光再発見事業</b></p> <p>《土佐清水市》</p> <p>地域産業の連携と地域が協働することで、観光客に地域をまるごと知ってもらい、地域住民と交流する施設や小動物等とふれ合える施設等整備の在り方、NPO竜串観光振興会が中心となって行っているサンゴ保全や観光メニューづくりなどのソフト事業について、地域住民や観光関連団体、市が連携しながら検討し、竜串観光の振興を図る。</p> <p>【土佐清水市、土佐清水市観光協会、NPO竜串観光振興会、竜串地区、竜串自然再生協議会】</p>	<p>○地元NPO竜串観光振興会を中心に、新たな観光メニューづくりや竜串地域の施設再検証、清掃活動、サンゴ保全、イベント開催、地元小学校の学習活動支援等、様々な活動に取り組んでいる。(～24)</p> <p>○ステップアップ事業を活用し、竜串の観光資源の認知度と関心度のギャップ調査を実施。調査結果を基に、産業振興総合補助金の活用及び市単独事業により、情報発信、認知度向上を図っている(今後の戦略展開に活かす予定)。(H22～24)</p> <p>◆観光客の減少。</p> <p>◆観光消費額の減少。</p> <p>◆人材不足。</p> <p>【指標及び目標(H27)に対するH24実績並びにH25目標】</p> <p>・入込客数: (H23)9.6万人→[H24]9.8万人⇒[H25]11万人</p>	<p>・NPO竜串観光振興会 海のギャラリー指定管理者33ヶ月継続。</p> <p>・NPO竜串観光振興会 海のギャラリー手作り体験新規メニュー開発。</p> <p>・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業費補助金:雇用人数1名</p> <p>・キャンドルづくり等や見残し観光など、昨(H24)年度同様に実施中。</p> <p>・高知・西南地域観光キャンペーン“楽しまんとはた博”観光商品造成。[田舎の祭典「はたの夏休み2013」:2商品、体験プログラム:12品目、ステップアップイベント:竜串クリスマスイベント]</p> <p>・高知県観光拠点等整備(観光資源魅力向上)事業費補助金:1,550千円(事業費:3,100千円)</p>
<p><b>39 土佐清水まるごと戦略観光展開事業</b></p> <p>《土佐清水市》</p> <p>観光産業を地域の戦略的産業と位置づけ、農業・漁業・商業等と連動した地域まるごと観光を推進するため、食・体・商を集約した海の交流拠点施設として「海の駅」を核に、観光ニーズに即応できるワンストップサービスを推進する。</p> <p>【(社)土佐清水市観光協会、地域活動団体、土佐清水市】</p>	<p>○「海の駅あしずり」に土佐清水市観光協会事務局を配置。ジョン万次郎資料館もリニューアルオープンし、異業種が連携したイベント「海の元気まつり」の実施や、体験型観光の受入窓口となるなど、交流拠点として存在。その他、市内各地等での様々なイベントの開催、県内外への観光PR・誘致活動、個人観光客へのきめ細かな対応、体験型修学旅行の受入など、当局観光振興の中核として取り組んでいる。(～H24)</p> <p>◆地域の特性、資源を活かした体験型プログラムの造成。誘致・プロモーション活動の推進。</p> <p>◆観光客の減少。</p> <p>◆観光消費額の減少。</p> <p>◆人材不足。</p> <p>【指標及び目標(H27)に対するH24実績並びにH25目標】</p> <p>・入込客数: (H23)68.6万人→[H24]70.2万人⇒[H25]80万人</p>	<p>・高知県産業振興推進ふるさと雇用事業費補助金:雇用人数2名</p> <p>・厚生労働省実践型地域雇用創造事業:雇用人数2名</p> <p>・GW「ジョン万海の元気まつり」実施(5/3～5/5)</p> <p>・香港国際旅遊展(ITE2013)出展(6/13～6/16)</p> <p>・はた博向け体験プログラムの造成</p>
<p><b>40 四万十市の地域資源を活かした通年・滞在型観光の推進</b></p> <p>《四万十市》</p> <p>四万十市内での滞在期間を延ばし、宿泊を促す「通過型観光からの脱却」と閑散期(秋・冬)にも観光客に訪れていただく通年型観光へ向けた取組及び観光客の情報収集などの拠点となる施設整備により、宿泊型観光の増加を図る。</p> <p>【四万十市観光振興連絡会議、奥四万十楽しまんPT、四万十市】</p>	<p>○通過型観光からの脱却と閑散期(秋・冬)対策として秋に特化した宿泊を促すイベントの開催にあたり、これまで実施できていなかった飲食店組合及び旅館組合との連携を図ることができ、官民一体となった観光客受入体制の足場を築くことができた。</p> <p>「四万十川周遊川バス」、「しまんとあしずり号」運行による二次交通補強</p> <p>○四万十市内の自転車による観光地点を発掘したことで、自転車による観光客受入体制が整備できた。</p> <p>○観光商品開発数 (H24:74体験)</p> <p>◆イベントを主とした宿泊観光客増は一時的(例:土日祝限定)であり、また受入側の負担増となってしまう。継続的で負担増とならない観光商品(体験メニュー)の開発や受入システムづくり、人材育成が必要。</p> <p>◆エリアへの主要移動手段である自動車を使用した観光客への核となる拠点整備。</p>	<p>・緊急雇用事業活用(中村観光協会、西土佐商工会)</p> <p>・県観光拠点等整備事業活用(四万十川水遊館改修費189万円の1/2)</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
・モニターツアー参加者18名	・教育旅行受入(6月末現在:4校、385名)	<b>【指標】</b> ・教育旅行受入数 (H22:3,074人) ・一般旅行受入数 (H22:59人)  <b>【目標H27】</b> ・教育旅行 4,000人 ・一般旅行 30,000人  <b>【H25到達点】</b> ・教育旅行 1,000人 ・一般旅行 5,000人
・海のギャラリー-手作り体験メニュー体験者数:(5月末累計)44人[同前年度75人] ・はた博HPにて体験商品販売開始	・入込客数:(5月末累計)21,990人[同前年度21,958人]	<b>【指標】</b> 入込客数 (H22:12万人)  <b>【目標(H27)】</b> 12.5万人  <b>【H25到達点】</b> 11万人
・GWジョン万海の元気まつり(来場者:約3,500人) ・香港国際旅遊展(来場者:旅行関係11,872人、一般73,200人) ・はた博HPでの体験型商品数(18品目)		<b>【指標】</b> 宿泊者数・入込客数 (H22:86.9万人)  <b>【目標(H27)】</b> 82万人  <b>【H25到達点】</b> 80万人
・雇用2名(4/1～)	・観光商品開発数:77(6月末現在)	<b>【指標】</b> 観光商品開発数 (H22:63体験)  <b>【目標(H27)】</b> 100体験  <b>【H25到達点】</b> 83体験

【地域アクションプランの取り組み状況と成果】

<幡多地域>

項目名及び事業概要、主な事業主体	これまでの主な成果と課題 <これまでの主な成果:○ 課題:◆>	インプット(投入) <講じた手立てが数量的に見える形で示すこと>
<p>4.1 竜ヶ浜自然体験・環境教育交流推進事業</p> <p>《大月町》</p> <p>大月町柏島竜ヶ浜に、その植生(県内で2箇所しかない湿地帯)を活かした、自然体験及び環境教育型の滞在交流拠点施設を整備して、交流人口の拡大と地域の経済の活性化を図る。</p> <p>【大月町】</p>	<p>○基本計画策定(H22)</p> <p>○施設整備(H23)</p> <p>○H22ステップアップ事業を活用し基本計画を作成、H23産業振興総合補助金を導入し、キャンプ場(管理棟・炊事棟・駐車場・テントサイト等)の整備及び体験メニューづくりを実施した。H24.4.28供用開始。H25以降、利用者増、収益増のため、さまざまな方を計画的に実施し、検証していく。</p> <p>H24利用者:4,533名以上</p> <p>◆管理運営を委託する観光協会の収益体制の確立</p> <p>◆施設へ海水浴客等を誘導する仕組みづくり</p> <p>◆県内外へのPR</p>	<p>・ふるさと雇用事業(事業費:4,966,000円)</p> <p>・緊急雇用事業(事業費:6,606,224円)</p> <p>・はた博に向けた体験商品の造成</p> <p>・エージェントへの売り込み</p>
<p>4.2 黒潮町の地域資源を活かした体験型観光の推進</p> <p>《黒潮町》</p> <p>黒潮町の豊かな自然環境を生かした体験型観光を推進することで、都市部との交流人口の拡大を図ると共に地域の活性化につなげていく。</p> <p>【NPO砂浜美術館、黒潮町】</p>	<p>○体験プログラムの開発・ブラッシュアップやモニターツアー実施、砂浜美術館Tシャツアート展の広がりやクジラの生態調査など自然環境を活かした取り組み強化、カツオ文化のまちづくりや農林漁家民宿のスキルアップ、スポーツ合宿誘致や大会実施等、地域資源活用型の体験交流地域として、関連団体の連携・強化が実を結びつつある。</p> <p>○H24 入込客数:603,916人</p> <p>◆インストラクターの養成とスキルアップ</p> <p>◆幡多観光キャンペーンにおける情報発信及びオフィシャルイベント等の企画運営</p> <p>◆高知県及び幡多広域観光協議会等が実施する観光誘致営業活動への参加</p> <p>◆幡多地域の東玄関口となる佐賀道の駅建設(H25予定)に伴う、地域情報の一元発信</p> <p>◆町内の資源を活用した観光プログラムの開発・モニターツアーの実施</p>	<p>・はた博に向けたイベントの磨き上げや体験商品の造成</p> <p>・スポーツ合宿誘致の売り込み実施</p> <p>・砂浜美術館モニターツアー実施(雑誌編集者向け)</p>

<b>アウトプット(結果)</b> <インプット(投入)により、具体的に現れた形を示すこと>	<b>アウトカム(成果)</b> <アウトプット(結果)等を通じて生じる、プラスの変化を示すこと>	<b>指標・目標</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用3名(ふるさと1名、緊急2名)</li> <li>・はた博HPで体験型商品の販売開始</li> </ul>	・4～6月の宿泊者数 197人(前年比104人増)	【指標】 利用者数  【目標(H27)】 8,700人  【H25到達点】 5,500人
<ul style="list-style-type: none"> <li>・はた博に向けた体験プログラムを9商品造成</li> <li>・合宿招致:2団体106名</li> <li>・モニターツアー参加者5名</li> </ul>		【指標】 入込客数 (H22:57.8万人)  【目標H27】 60万人  【H25到達点】 69万人